

# 農のくう 空間かん

第70号

発行所  
福島県農林水産部  
農村計画課

## 【特集】

### 毎年4月は、 農業水利施設の 『施設強化月間』です!!



平成24年12月に発生した  
笹子トンネル事故を受け、  
国ではインフラ施設の老朽  
化の問題や施設のメンテナンス  
の重要性を「日本再興  
戦略」として閣議決定し、  
国民の命と財産を守り抜く  
ため、安全で強靱なインフ  
ラシステムの構築を進めて  
いくこととしました。食料  
生産を支える重要な施設で  
ある農業水利施設について  
も例外ではなく、施設の適  
正な管理が求められていま  
す。

「新しい施設に造り替える」  
のではなく、「壊れる前に  
予防保全的な整備・補修を  
して長持ちさせる」ことを  
進めています。日常管理↓  
診断↓整備・補修計画の立  
案↓整備・補修というPD  
CAサイクルを導入し、施  
設の長寿命化を図る取組  
です。

【農林水産部 農地管理課】

毎年4月は  
農業水利施設の  
『施設管理強化月間』  
です。

点検して、異常を感じた時は  
最速の福島県農林水産部に  
ご連絡ください!

施設管理強化月間ポスター

### 会津農林事務所

会津盆地は県内でも有数の  
米どころで、藩政時代か  
ら稲作を中心に農業展開さ  
れてきた地域です。

ほ場整備も北会津地区を  
皮切りに昭和39年に営事  
業が開始され、半世紀の間  
に会津盆地(約2万ha)の  
98%で30a以上の区画整理  
が完了しています。現在実  
施中の地区は埋蔵文化財や  
地区境界、河川・道路など  
の他省庁協議と難問を多く  
抱えており、担当者を悩ま  
せております。このような  
状況の中、会津地方から地  
域農業を元気にするほ場整  
備の実施状況について報告  
します。

報告例(写真)は現在継  
続中の8地区のうち、平成  
28年度に面工を行った門  
田第4地区の施工前・施工  
中・施工後の比較です。工  
事関係者の高齢化、人員不  
足の中、日々奮闘いただき  
ようやく完成することが出  
来た現場です。

【農村整備部】

県内からの便り  
会津地方のほ場整備



【施工前】田の形と大きさに注目

【施工中】水路の設置をしています

【施工後】効率良い営農が可能!

### 福耕支援隊情報

相双農林事務所農村整備第三  
課では、施設復旧班と南部農地  
復旧班に分かれ、農業用施設  
(排水機場、ため池等)の復旧  
や旧避難指示区域のほ場整備な  
ど幅広い業務を行っております。  
当課では、今年度は3名の福  
耕支援隊の応援をいただき、日々  
の業務に励んでおります。  
ここで3名からのメッセージ  
をご紹介します。



農村整備第三課の3名にインタビュー!  
(左から野上主任主査、秋山主査、今田技師)

△愛媛県V 秋山元洋 主査  
平成28年4月で2年目を迎えることとなりました。愛媛県の秋山元洋です。昨年同様、農村整備第三課でお世話になっております。今年度は福島県だけでなく、東北地方の他県まで足を延ばしました。今年度も残り少ない業務に励んでおります。日々の業務に励んでおります。

△秋田県V 今田裕樹 技師  
4月から着任し、あつという間に2月となつてしまいました。常磐線が7月に原ノ町〜小高まで運転再開、12月には相馬〜浜吉田まで運転再開し、原ノ町から仙台まで電車で行けるようになり、震災前の生活がまた1つ戻ってきたのではないかと思います。今年度は初日の出を見ることが出来ましたが、復興のお役に立てたなら幸いです。

△大分県V 野上康則 主任主査  
福島に災害派遣として着任し、残り1ヶ月半となりました。南相馬市からは外には出ないでニートな生活を続けてきました。残り期間にどこか観光に行き、思い出を作りたいと思います。仕事の方はご迷惑をおかけしておりますが残りの期間頑張りますのでよろしくお願ひします。



今田技師

秋山主査

野上主任主査



県南

「玉野堰と棚倉堀の紹介と  
田んぼの体験学習」



棚倉町土地改良区



現在の「棚倉堀」

棚倉町土地改良区は平成2年10月に社川土地改良区、棚倉土地改良区が合併して設立されました。受益地は浅川町と棚倉町にまたがり、受益面積1,139ha、組合員数1,190名を管轄しています。



社川に作られ地域の重要な水源を支える「玉野堰」



を通して久慈川に繋がっており、全国的にも珍しい特徴となっています。「玉野堰」と「棚倉堀」は、長きにわたり地域に潤いと繁栄をもたらしてきましたが、現在当改良区では、こうした歴史を踏まえながら、田んぼの体験学習に力を入れています。



の人達の苦勞を理解する場となつています。特に、手植え、鎌を使った稲刈り、はざかけ、江戸時代使用されたしほこきや大正時代から昭和40年代まで使用された足踏み脱穀機による脱穀など、昔ながらの手作業を体験してもらおうという内容を工夫しています。

子供たちですが、体験後の感想からは、お米を育てる大変さ、お米とそれを育む自然環境の大切さをしみじみと感じている様子が伝わってきます。



【棚倉町土地改良区】

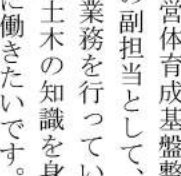
新規採用職員の紹介

- ① 所属・氏名
- ② 出身地
- ③ 学生時代の専攻
- ④ 志望動機・担当業務・抱負

① 会津農林事務所  
農村整備課  
伊藤 正倫



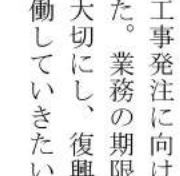
② 郡山市  
農学部  
生物生産科学科



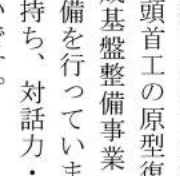
③ 農家出身であり、福島県の農業の復興とその先の未来をよりよくしたいと思志望しました。経営体育成基盤整備事業 門田第4地区の副担当として、設計書の作成や監督員業務を行っています。経験を活かして農業土木の知識を身につけて、県民のために働きたいです。



④ 相双農林事務所  
農村整備第三課  
熊谷 恵介



① 南会津農林事務所  
農村整備課  
伊藤 沙英美



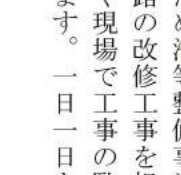
① いわき農林事務所  
農村整備課  
浦野 友貴



② 伊達市  
農学部  
共生環境課程



③ 福島県の農業を生産基盤から支えたいと思志望しました。ストックマネジメント事業 夏井川左岸地区及び基幹農道整備事業 釜ノ前4期地区を担当しており、現場での段階確認等を行っています。日々の業務の中で知識を身につけ、地元住民に寄り添った考え方が出来る職員になりたいです。



④ 県中農林事務所  
農村整備課  
佐野 雅広



④ 農業の基盤となる農業土木分野において、農村活性の橋渡しをしたいと考えて志望しました。災害復旧事業 大橋堰地区では、被災した頭首工の原型復旧を行い、経営体育成基盤整備事業 田部地区では、ほ場整備を行っています。常に学びの姿勢を持ち、対話力・対応力を鍛えていきたいです。



編集後記



「農空間」とは... 農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間のことです。